



左から3番目 劉先生、山下先生 南京運動学校で

2007年11月に外務省の草の根無償支援で開設された青島友好柔道館に続いて、南京に第2の日中友好柔道場が開設できる可能性を探るために、2008年11月24日～30日まで南京、青島そして上海に行ってきました。



青島友好柔道館でTV番組に出演しました

青島の日中友好柔道館も、2008年の11月に1周年を迎えました。

運営も順調に進んでいるようで、11月25日には、盛大な1周年記念式典が開催され、私も出席してきました。



青島友好柔道館の子供たちとスタッフ

柔道館に通う生徒の数も増えてきており、これまでにご尽力いただいた青島柔道協会会長であり、友好柔道館の除殿平館長、そして実際の指導にあたられている王華さんに心から敬意を表したいと思いました。



1周年記念パーティーでスピーチする除先生

実は、青島友好柔道館を開設するために動いていた2006年に、劉俊林先生から南京市に友好柔道館を開設したい意向が既に私の方に届いていました。劉俊林先生は、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、本法人が2006年から中国男子柔道チームを東海大学で招聘した時のチーム監督で、南京柔道協会の会長であり、江蘇省運動学校の主任もしておられます。



劉俊林先生

しかしながら、日本国民の貴重な税金（草の根文化無償支援1000万円が上限）をいただいて開設するのですから、正しくこの税金が使われているか見極め、まず青島の友好柔道館が軌道に乗ってから南京のことを考えたい、と伝えていました。



候補地の女子の柔道場



候補地のある南京運動学校

南京市で候補にあがっている柔道館は、すでに江蘇省体育学校の中にあり、3階建ての2階に位置しており、現在は女子の柔道練習場になっていました。

さて今回の一番の目的である、南京市と外務省(上海領事館)と友好柔道館開設についての話し合いの中で、以下のようなことが確認されました。

南京市の人口800万人の中、日本人は上海や他の大都市に在住している日本人に比べて大変少ない。上海から新幹線に乗れば、2時間でくれる環境にもありながら、南京での過去のいきさつもあり、日本企業の進出が少ない。この状況から、さまざまな分野の交流を通して日本と南京の距離を縮めたい。

現在南京市江蘇省運動学校にある女子のための柔道場を、この友好柔道館の候補としてあげている。この草の根無償の支援をいただくにあたり、ひとつの大きな条件に、この柔道場が一般市民に開放できるか、ということがある。将来、この柔道館を一般市民に開放し、この柔道館を通して交流が可能か?上海領事館の山本領事の質問に対し、南京市、南京体育局、そして南京柔道協会もこの点については十分に理解しており、可能性が見出せた。



南京大学の講堂で

また候補地の視察に先立って、上海総領事館と南京にいらっしゃる日本人の方々のご協力を得て、南京大学で講演会を開催しました。

200名以上の聴衆者が参加されましたが、そのうちの は南京大学で勉強している日本人、また南京柔道協会からの参加者が、そしてあとの が日本語を勉強している中国人の方でした。講演の内容としては、柔道を通して今までにNPO法人として取り組んできた日中交流、嘉納治五郎師範が日清戦争後に行った中国との交流、又は柔道の心、日本の心について話しましたが、参加者はみな真剣に聞いてくれました。また、質疑応答では『なぜ今、南京に柔道場の開設をするのか?』というような質問が出ました。

その質問に対して私は、『日中友好のために柔道場を開設するのなら、南京以外に考えられなかった。そしてこの柔道場は日中の平和のために建設したい』と答えたところ、参加者から大きな拍手が沸き、私の思いが参加者に伝わってくれた大きな感触がありました。南京で、講演会をして本当に良かったと思いました。



南京の夜景

南京市は北京、上海そして青島のような国際都市に比べて中国古都のイメージがあり、町並みは大変美しく、人々もとても親切で、今回の滞在中一切、反日的なイメージは感じませんでした。

帰国前夜、南京市の日本人会の方々、日本語を教えてらっしゃる方々と会食する機会がありましたが、皆さん口をそろえて、南京の人々は人情が厚く、今までにいやな思いをしたことはない、と言っておられたことは大変印象的でした。私自身、南京に行く時は気をつけたほうが良い、と聞いていました。しかし、いざ南京に行って現地の人々と触れ合い、話してみると、まったく違っていました。本当に、心と心の交流ができる地だと実感しました。



平和の塔の前で劉先生とガイドの方と

戦争博物館にも行って来ました。展示物は中国語、英語、そして日本語で標記されており、目を背けたくなる展示物や映像がありました。この博物館に入ったところに、「二度と同じ過ち、同じ目に会わないように、この歴史を決して忘れてはいけない、両国が平和になるために」と大変心を打たれたメッセージが書かれてありました。出口付近のスペースには、日中友好条約調印式のときの写真などが展示されており、日中友好の展示物がありましたが、多くの人たちは素通りしていたのが残念でした。



平和記念館でお焼香しました

今回、南京には3泊という短い滞在でしたが、過去を乗り越えてこられた南京の方々と触れ合ったことで、私はこれからも南京市と日本人の交流が盛んになり、友好柔道館が開設できれば、柔道を通した心の交流をしていきたいと思えます。